

小杉湯が国登録有形文化財に登録されました

昔ながらの銭湯の魅力を残しながら、数々のユニークな取り組みで知られる小杉湯が、国登録有形文化財（建造物）に登録されました。

小杉湯（高円寺北3丁目32番2号）は、昭和8年（1933年）に小山惣太郎さんによって建設され、昭和28年（1953年）に現在の所有者である平松茂さんの父吉弘さんが購入しました。昭和38年、昭和46年、平成元年に増築、平成16年に改修をして、地域の方々に愛されながら営業を継続してきました。

現在、東京都内の銭湯が減り続ける中、小杉湯は昔ながらの銭湯の良さを残しながら、名物ミルク風呂、季節に合わせたイベント風呂、ヨガ・ピラティス教室、待合室ギャラリーなど創造性あふれる取り組みの数々で、多数のファンを獲得しています。令和2年3月には、小杉湯に隣接するアパートを改築し、若い世代中心に企画運営を行う会員制シェアスペース「小杉湯となり」をオープンするなど、新たな取り組みも注目されています。

小杉湯の建物は、木造一部2階建て、入母屋造、棧瓦葺き（脱衣場）及び鉄板瓦棒葺き（浴室）、外壁は真壁白漆喰（しんかべしろしっくい）塗りで、建築面積は286.93㎡です。

玄関の唐破風（からはふ）と大屋根の千鳥破風（ちどりはふ）と言った公衆浴場としての伝統的スタイルを維持し、東京でよく見られる銭湯の典型的な一例として数えられています。玄関外壁には、昭和初期によく用いられた布目湿式施釉タイルが使われており、これらは昭和初期の浴場建築の外部意匠として価値が高いと言われています。また、浴室の奥の壁には大きなペンキ画で令和2年11月にリニューアルした富士山が描かれ、人気を集めています。

6日、国登録有形文化財の登録を示すプレートが、杉並区教育委員会から小杉湯の二代目平松茂さんと三代目平松佑介さんに届けられました。茂さんは「登録されたことを地域の方々にも知っていただいて、息子（佑介さん）からさらに100年、150年と続けていけるように努めていきたい」と語っていました。

区内には、このほか、東京女子大学の校舎や角川書店の創業者の角川源義氏の邸宅、現在も旅館として営業中の西郊ロッキングなど20件の登録があります。今回の登録では、小杉湯のほかに、「女性に関する十二章」などで知られる作家の伊藤整（いとうせい）さんが建てた伊藤家住宅主屋も選定されています。



【問い合わせ先】

教育委員会生涯学習推進課 TEL：03-3312-2111 内線1661

総務部広報課 TEL：03-3312-2111